

2023 年度 情報学部 小論文試験についての全体講評

1. 出題の意図

令和 5 年度の小論文試験は、情報学部のアドミッションポリシーに示されている「幅広い教養と基礎学力を身に付けていること」と「情報技術のあり方について自ら思考し表現共有する力を有すること」の評価を主たる目的として出題されています。社会で利活用されている広い意味での情報技術に関する文章を題材とし、主にその文章で述べられていることの理解および、理解に基づいた思考力を問い、適切な表現で解答できる力を評価するための問題で構成されています。解答するための思考を「ていねい」に記述できること、すなわち指定の文字数を活用し、読み手を意識した過不足のない論述を構成する表現力も問われています。

2. 採点・評価のポイント

いずれの選抜区分においても、大問 2 問からなる出題でした。各々の問いごとの評価のポイントは、以下の通りです。

問題 1

問題 1 は 2 つの設問から構成されています。

設問 1 では、題材の内容の理解力が主に問われ、理解したことがらを過不足なく述べることが期待されます。一部の選抜区分では、数的根拠を示すことを通じて、解答する必要がありました。その問題においても、題材が述べている状況を理解し、問われていることがらについて適切に考察ができることおよび、考察した内容が簡潔に記述できるかがポイントです。

設問 2 でも、設問文の内容の理解が問われ、理解した内容に基づいて考察したこと、もしくは題材から読み取れることがらに基づいて解答文を構成する表現力が評価のポイントです。

問題 2

問題 2 は、情報技術や情報活用などに関する文章を理解し、理解に基づいて考察を行い、その内容を適切に述べることを求めています。

考察のもとになった仮定、その仮定から導かれる結論への論理的な思考過程を適切に述べることや、題材に立脚しつつ、問いに対して、なぜそのように考察したのかを述べる必要があります。本設問において、唯一明らかな正解はなく、評価のポイントは、議論の明快さと展開の適切さです。題材に含まれない内容や、題材において否定されている事実に立脚することは適切ではありません。また、設問に指定されていることがらから逸脱した例示、議論あるいは、論理的でない表現も適切ではありません。

一部の選抜区分では、考えを述べるために、数的なデータの把握が必要でした。また、設問文が取り上げている専門用語の意味を読み取ることが必要でした。ここでも、設問文の適切な理解と理解した内容やデータに基づいて考察した内容について記述する表現力が評価のポイントです。

福知山公立大学入試委員会

2023 年 3 月 31 日